

## Day7 活動報告

人文社会科学部 2 年

10:00 ホテルロビー集合

10:00 になると毎日インドネシア国歌である「インドネシア・ラヤ (Indonesia Raya)」がホテル内で流れる。前回とは異なり、今日は起立を促されたが、これは国家への忠誠・敬意を促す文化活動の一環であるらしい。

10:10 Tugu Jogja(C4) 到着

ジョクジャカルタに存在する人間と自然と神の間の宇宙的バランスという哲学を反映されて作られた。1889 年 (19 世紀) にオランダにより改修工事が行われたことで西洋的なデザインに変更され、塔の高さが 25m→15m になった。



10:20 マリオボロ通りのお土産 SUGENG RAWUH に立ち寄る

ココナッツが入ったお饅頭が美味しいらしいが、賞味期限が 3 日しかないらしく空港内で買うことを勧められる。

10:30 alfa mart に立ち寄る

インドネシアで普及している「ミニマーケット」チェーンのこと

ミニマーケットチェーン

: 日本のコンビニより規模が大きく、スーパーマーケットより規模小さいサイズインドネ

シア全土に 20000 店舗ある

Alfa mart と Indo mart がインドネシアには存在し、一本の通りは数店舗置きに立ち並ぶ  
など、高いシェア率が伺えた。



11:00 観光局に立ち寄る



11:05 Kepathan complex (C3) 到着

現在でもジョクジャカルタ王朝のスルタン兼ジョグジャカルタ特別州知事であるハメンクブウォノ 10 世が働く。

いわゆる首相官邸もしくは県庁であると考えられる。

#### 11:15 Special Region of Yogyakarta Governor's Office 到着

土曜日のため営業時間外であったが門付近にいた警備員に内部を案内してもらう。

ジョクジャカルタの行政はスルタンによって担われているが、インドネシア政府の下に属しているため、書類にはインドネシア語が用いられていると教えてもらった。

建物は 19 世紀に建てられたものであり、王が執務を行う建物は外部からは見えないようになっているらしい。



#### 11:25 マリオボロ通り散策

インドネシアのユニクロのような店に立ち寄る。



11:40 Beringharjo Market 到着

オランダ東インドコンクリート会社がジョクジャカルタ王宮からの命令で 11 個の屋台を建設した。そのため王家を中心に都市経済の発展を促そうとしたのが伺える。

バティックマーケットを散策

所狭しとお店が並んでおり、内部で繋がる 2 棟の建物は 3 階建てと 2 階建てに分かれています。

上に上がるほど値段が上がり、店数が減少するため店舗ごとの空間が大きくなる。



12:20 Hamzah batik 到着

お土産や雑貨、バティックを使った洋服が置かれており、こちらも 3 階建てであった。

1 階にはバティック衣装とお土産、2 階には雑貨、3 階には子供服など階により商品が分か  
れていた。



13:00 アルンアルンロール到着

王宮の正面を示す広場であり、中央に生える 2 本の木の間はスルタンと王位継承権を持つ王子のみが通ることを許された。これは王の権威と神聖さを示すうえで重要であり、現在は立ち入りを制限されるなど、広場保護活動が行われている。その一方、一般市民の行事の際に使用されるなど、王と民の距離が縮まってきていると考えられる。



13:05 Gedhe Keraton Yogyakarta Mosque 到着

王家が所有するモスクであり政治的だけでなく宗教的にも権威を持つことを示している。

カーペットや床に描かれる線に沿って整列して礼拝を行う。

モスクに入る際のルールとして男性は着帽、女性はヒジャブを巻き、全員が靴を脱ぐ必要がある。またモスクの前ではコーランの学習が行われ、イクラ、ユズアンマなどの教本を用いてコーランを読む練習が行われる。

9月20日はモスク内に入らず見学した。そのため下部で用いたモスク内部の写真は9月18日に撮影したものである。



13:15 ココナッツミルクを飲む

モスク横の店でココナッツを注文。緑色のは甘かったが、茶色のココナッツになるにつれて酸っぱくなることがわかった。また味の感想としては os-1 やメロンに水など個人によって分かれた。

店員さんがスプーンで実を掻き出してくれたので食べたところ、薄味のメロンであった。



13:50 車移動

14:00super indo 到着

地元スーパーでインドネシアのお菓子から日本のお菓子、韓国のお菓子など幅広く取り揃えていた。



14:50 super indo 散策終了

15:00 ホテル到着

ワランチケット購入の時間調整のため、ホテルに戻って1時間ほど休憩した

16:00 ホテル出発

16:10 果物屋到着

見たことがない果物が売られていたため、Google を用いて検索を行ったところライチと似た果物である「リュウガン」もしくは「梅」だとわかった。



16:50 Mediterranea Restaurant by Kamil 到着

ヨーロッパ料理のお店であり、とてもおしゃれな店内だった。



18:00 出発

18:10 Museum Sonobudoyo Unit I 到着

18:30 からチケット販売のため、ミュージアムショップに立ち寄った。



店内にはワヤン・クリットで用いられる牛革で作られた人形が置いてあった。

1 週間で一体完成することや、細かく穴を開けているが切り絵のように全て繋がっていることを店員さんから教えてもらった。

19:20 会場入場

19:25 演奏準備

ガムランにおける女性ボーカル「プシンデン」はマイクを持って歌い、歌っていない二人は手拍子などを行っていた。

待機中はおしゃべりするなど終始和やかな雰囲気であった。



20:00 ワヤン・クリット「ラーマーヤナ」上演 片手で一体ずつ操作しているが、戦う際には両者の剣(操作するために用いる長い棒)が同時に宙を舞い面白かった。 剣の斬撃音はガムランが行いさらに臨場感が高まった。

観客は投影画面の影側に座ることしか許されていなかった時代もあったが、現在、観客はダランの側からワヤン・クリットを見ることができるようになった。また今でも、影絵を見る方の椅子は質素なパイプ椅子であり、伝統が未だ続いているのか疑問を覚えた。

歌舞伎のツケのようにセリフが男性から女性に代わる際に、木をうち付けているなど、日本の文化と似ている部分があると感じた。



21:40 上演終了

22:00 ホテル到着